

Colli

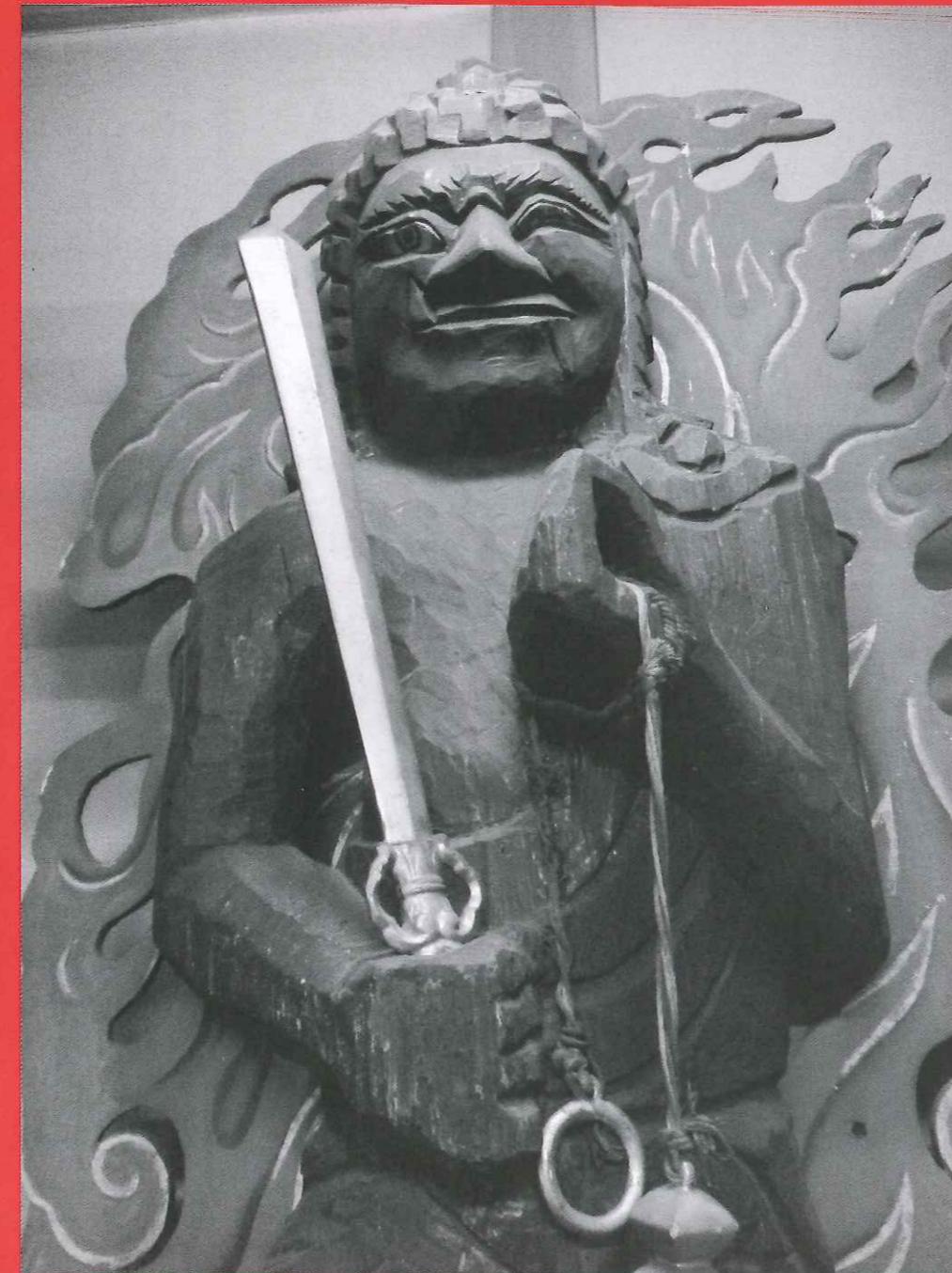
令和4年3月15日発行（毎年7月・10月・12月・3月発行）

春

第156号

あちあい

責任者 谷口 俊頭 企画・編集 落合第二地域センター管理運営委員会 広報部
〒161-0032 新宿区中落合4丁目17番13号 Tel. 03-3951-9941 Fax. 03-3951-9310



中井出世不動尊
円空（1632～95）作

関連記事はP4にあります

一年ぶりの「染の小道」開催

げます。

中核で動くボランティアの方々、学生、大学の関係者、地域で支えてくださる町会、商店、染物作家の皆様、行政機関、メディアの関係者、本当にありがとうございます。

古くから継承される技術を絶え間なく継承していくことが私たち染屋の使命だと考えております。美しく染められた着物や染物の「バトン」を次世代に受け渡すためにも今後とも染の小道を応援頂ければ幸いです。今まで、これからも変わらない継続する文化を皆様とともに培えたら、これほど嬉しい事はないと思つております。

染の小道二〇二二

代表 高市 洋子

一年お休みを頂きました「染の小道」を二〇二二年二月開催する運びとなりました。従来通りとはいかなないまでも感染対策を取りながら、コロナ前に近い形式での染の小道の開催を実現致します。染の小道は商店、染物屋、地元住民の様々な立場の人が協力をし合い地域の活性化と染物産業の活性化を目指して活動しております。コロナ禍では商店や染物屋も大変な時期を経て、乗り越え、また現在も厳しい状況の中営業しております。

着物文化とそれを支える染物業は先人から受け継がれ未来へ受け継がれる財産であり、過去から未来へのリレーのようなものだと、そしてその受け渡しの「バトン」の役割がこの「染の小道」だと考えます。染物の文化を閉ざす事なく未来へ繋げるために、また落合の地域の活性化のためにも難しい局面での開催を決意したことをご理解頂ければ幸いです。また、開催に意識を向けられたのはひとえに多くの関係者の皆様の協力と努力の賜物です。この場を借りましてお礼申し上



平塚運一展 白と黒の版画

ギャラリー喫茶としてプロアマの芸術家の展示を一ヶ月交替で開催する「パレット」。西落合にゆかりのある（自性院にお墓）平塚運一（一八九五～一九九七）の作品、西落合在住の版画家岩崎浩三氏（おちあい一四二号）の作品などが展示されています。（三月三十一日まで）

■喫茶パレット
西落合1-21-11
メゾンドール篠崎B1F
(あかね公園の道路向)
■03(3951)5470
■土日祝定休 9時～15時



ご冥福をお祈りいたします

一九八八年七月創刊から九十五号までの編集責任者で「おちあい」題字の揮毫者。昨年四月十六日永眠されました。享年百歳。ご冥福をお祈り申上げます。（一四二号にて取材）



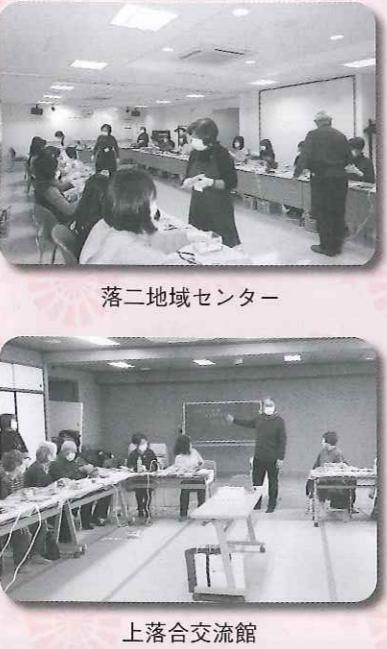
菅野廉一氏

手芸教室「手作り正月飾り」地域センターと上落合交流館で開催

これまで落二地域センターで開催してきた「手作り正月飾り」を今回は上落合交流館でも実施しました。

地域センターは、十二月十一日（土）午前・午後の入替制（各回定員二十名）。上落合交流館は、翌十二日（日）午前（定員二十名）。

上落合交流館での開催は、地域センターへのアクセスが上がり坂のために出かけるのが困難な方達が気軽に参加できるようにとの試みです。皆さん大変喜んでいただき大好評でした。



特別出張所大山所長の挨拶



開始前の会場チェック



子どもたちも参加



完成品

この木、何の木 三叉（ミツマタ）

ジンチャヨウゲ科ミツマタ属

原産国 中国

別名 ミツマタヤナギ

早春に枝の先にポンポンのような花が木の先端に咲く落葉樹。良い香りがする。同じ場所から三本の枝が常に三本セットで枝分かれする独特の枝ぶりから「ミツマタ」の名

がついたといわれる。

樹皮は、和紙の原料として使われる。コウゾ、ガンピなどに比べ、丈夫で紙の表面に光沢があるため、より高級感のある紙を作ることができ、紙幣もミツマタを原料として作られる。花言葉は「強靭」と「肉親の絆」。



日本の美しい四季 春の句

春愁やシャガール画集の白い馬
木蓮の灯り目印万歩計

（上落合在住 高阪 進）

初ざくら 旅をためらふ オミクロン
うぐひすや 歩数計連れ 六の坂

（上落合在住 神原まつ子）



(続) コロナ禍の社会の動きと落二地域センターの運営状況 (6)	
1月6日	日本医師会中川会長「第6波に突入」
1月7日	東京都、新規感染者922人（昨年9月以来900人超え） 世界感染者累計3億人突破 政府、「まん延防止等重点措置」沖縄、広島、山口に適用（9日～）
1月11日	全国、新規6375人
1月12日	政府、水際対策を2月末まで延長 全国、新規1万3242人（4カ月ぶり）
1月19日	全国、新規4万1468人（過去最多） 東京都、新規7377人 政府、「まん延防止」追加（21日～）東京、埼玉、千葉、神奈川、群馬、新潟、愛知、岐阜、三重、香川、長崎、熊本、宮崎
1月24日	政府、「まん延防止」追加（27日～）北海道、青森、山形、福島、栃木、茨城、静岡、石川、長野、大阪、京都、兵庫、岡山、島根、福岡、大分、佐賀、鹿児島
1月28日	感染者病床使用率11府県で50%超 東京都42.8% 和歌山89.5%最多 政府、濃厚接触者待機期間10日間から7日に短縮
2月4日～	落二センター、3回目ワクチン接種会場再開設
2月5日	全国、新規10万5620人 東京都、新規2万1122人 「まん延防止」和歌山追加
2月6日	時点PCR検査能力39万516件/日
2月7日	岸田首相「2月中にワクチン接種1日100万回めざす」
2月9日	「まん延防止」高知追加
2月13日	日本の遊び（中止）
3月5日	文化講演会（中止）

貫禄の身を嫋に恋の猫
（中落合在住 櫻井 洋子）



わくわく

落合

円空仏と小学生 —中井出世不動尊—

緊急事態宣言が解除となつた昨年十一月二・十八日は開帳の日が日曜日に重なつた。下落合二丁目から小学二年生のT・T君とその父母がやつてきました。T君が自由研究で円空仏を発表したところ、それがきっかけとなり、学校行事（竹早祭）の学習発表会ではクラス全員が円空仏の写真を画用紙

にコピーリーし、カッターで切つた作品（子供たちは「切り絵」と表現）を展示したという。それらのスマホ写真を見せてもらつていたら、T君のクラス担任の曾根先生と家族がやつてきた。曾根先生は、クラス全員で見学をしたいと、その場にいた世話人代表の小野田三春氏に申し入れをした。

見学当日の十二月十四日（火）は、予報より早くから冷たい雨が降り始めた。五人の先生に引され、ランドセルを背負つた東京学芸大学附属竹早小学校二年生三十四人が出世不動尊に約束の十分に到着。

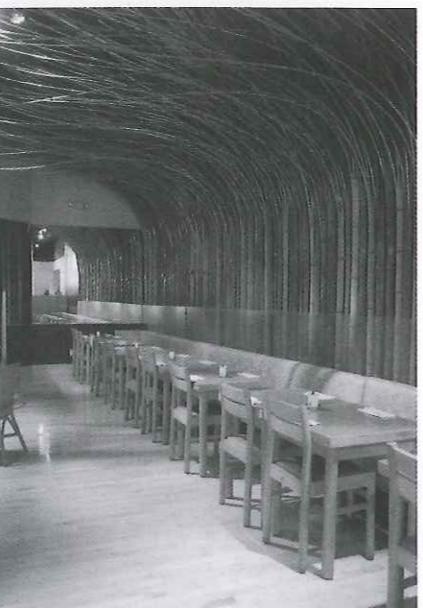


熱心に観察研究する子どもたち

少人数ずつ別れ、不動尊三像を身近に見ながら、観察ノートにイラストを描いたり、世話人の男女五人に代わるがわる嵐のような質問攻撃。「ここはお寺ですか?」「不動尊の重さは?」「粗彫りって何ですか?」「円空さんは何歳で死んだの?」「どうして中井出世不動尊と言うのですか?」「お不動様が持つているものは何ですか?」「なぜあるんですか?」

きつかり四十分滞在し、お礼を言いながら給食の時間に間に合うように帰つて行つた。先生の言ふことを守り、物怖じせずに発言する。悪ふざけをしたり、大声を出したりしない。子ども達から大いに刺激を受けた一日だつた。

（小野田 正治）



ニューヨークのレストラン

■参考
「貴族の来客を迎える寝殿」という名前の客間には壁もなければふすまなど

のように、街並みや、建物をみて楽しむことに私たちももっと敏感であつてもよいのではと思いました。花の季節、花とともにおちあい地区の豊かな景観も一緒に楽しんでお散歩できたらと願つています。
(藤川 裕子)



絵図「几帳の下からみえる袖と裾」：「袖が語れば」より

新型コロナウイルスの猛威はまだまだ収まらずにいます。

このコロナの後の世界を考えたとき、私たちが今までの生活スタイルを見直すきっかけになるのでは、と西落合在住の建築家麻生恒雄氏はおっしゃいます。

エジプトにピラミッドの時代があり、マヤに貨幣を必要としない黄金の文化があつたように、日本が範とする時代は、一番活力があり、文化も円熟した平安時代ではないかとおっしゃるのです。日本独自の文化がうまれた時代。貴族が担い手の中心でありますながらも中下流官人や僧侶からカナ文字などの新しい文化が発展しました。四季の移り変わりを愛で、歌を詠むことを楽しんだ時代です。貴族たちが東洋や十二単の礼服を身にまとい、寝殿造りの邸宅に住み、池の饗宴を楽しむ様子はいまだ絵巻物に残っています。

建築家 麻生 恒雄氏
「美しいものを求めて」（二）

※寝殿造り 中央に主人の室である寝殿（正殿）があり、北の対屋（妻の室。東西の対屋は子女の部屋で、室内は広く障子や几帳、屏風で仕切られていた。庭には池や築山がつくられ饗宴の場となっていた。）
(新日本史より抜粋)

出典：精選版 日本国語大辞典 小学館
しんでんづくり【寝殿造】より

そんな寝殿造りを現在によみがえらせ、ディズニーランドのように現在の人々に体現できる場所を作りたいと麻生氏は考えています。

設計したニューヨークのレストランでは、ニューヨークの竹を伐採し、壁一面に前衛芸術のオブジェのように竹をしならせた麻生氏。個人の住居では暮らしの中に快適さをしつらえた住居を提案。鹿児島の博物館では、当時アメリカで見たレリカを使つた人物を再現する展示方法を提案するなど、つねに新しい発想と知恵で建築と向き合つてきました。

中津川市付知町にある「熊谷守一つけち記念館」では、所蔵作品に似合う、町にだけ込む大好きな屋根の小さな美術館を提案されました。

寝殿造りの再現はリアルな空間になるのかバリチャルな空間になるのかわかりません。でもきっと優美な世界を作り出してくれるこども感じています。

コロナ禍の中、世田谷美術館「作品のない展示室」展、松濤美術館「白井晟一入門」（建物公開）、作品を展示するのではなく、建築物である美術館そのものを鑑賞する展覧会が開催されました。

花や木々を眺めたり、絵画や彫刻を鑑賞する

お詫びと訂正

前号の赤坂見附の国会図書館とあるのは四谷見附の間違えです。お詫びして訂正いたします。

国立国会図書館
国立国会図書館は昭和23年6月に赤坂離宮（現・迎賓館）を仮庁舎に開館しました。初代館長は第一次吉田内閣の憲法担当国務大臣金森徳次郎でした。昭和36年に永田町の現庁舎に移りました。



落合第二中

形を変えての職業体験

昨年度、未実施に終わった行事。形を変えることで実施ができました。2年生の校内で実施する企業体験をご紹介します。

★★ハーゲンダッツ・オンライン企業訪問★★

12月17日（金）3・4校時、ハーゲンダッツジャパンによる、オンライン職場体験が各クラスの教室で、ZOOM中継によって行われました。授業のプログラムは、

- ハーゲンダッツの歴史クイズ
- ハーゲンダッツの美味しさの秘密
- 商品開発の流れ
- ハーゲンダッツモーメントとは…

という内容で、普段スーパー・コンビニで見かけるハーゲンダッツからは想像ができないような裏側を知ることができました！授業の中で、グリーンティーのフレーバーについてお話をありました。新たな商品開発について伺い、これからどんな新作が出るのか楽しみになりました！

授業の最後には、ハーゲンダッツ・サプライズプレゼント！教室にアイスが届くとみんな大喜び！！ニコニコ顔でアイスを食べるみんなの笑顔に先生達も幸せな気持ちになりました。これこそ、ハーゲンダッツモーメント！この授業が行われる前から、「先生、アイス食べられますか？」という質問がたくさんありました。実は当日までの楽しみにしようと、ずっと内緒にしていました。サプライズをみんなで楽しみました♪

- ・働くという事は、誰かと協力することなのではないかと思いました。
- ・品質の高い商品を作るのは簡単ではないという事がわかった。
- ・企業訪問以前は、働くという概念が、モヤモヤしていましたが、1つの会社の中にたくさんの仕事があると分かり、自分に合った職業が見つけられそうと思いました。



★★テレビ朝日 出前授業★★

ハーゲンダッツジャパンによるオンライン授業に続き、12月20日（月）の5・6校時に、テレビ朝日の出前授業を実施しました。講師の先生は広報局お客様フロント部の吉平将英さんでした。まず5時間目は、テレビ番組の裏側で支えている人たちの仕事が紹介され、テレビ業界で働く人たちのこだわりを聞くことができました。一人では絶対にできないがゆえの「チームワーク」の重要性、新しいものを作り出す「やる気、発想力」の大切さを熱く語ってください、テレビに対する愛情がひしひしと伝わってくる授業でした。

6時間目では、ディレクター・タイムキーパー・アナウンサーの役割を全員が担い、ニュース番組の体験を行いました。最後に、各クラス2グループの代表者が前に出てきて、実演を行いました。緊張しながらも、協力して時間内になんとかやり遂げようとする一生懸命な姿が印象的でした！

<生徒の感想>

- ・今回の授業で、「やる気があり、人を巻き込んでいく人に人はついていく」という話が印象に残りました。
- ・一人一人のこだわりがワクワクする番組を作っていると分かり、番組制作の奥深さを知った。

副校長 宇野 順子



落合第六小

「おちろくクエストウォーク」

～一緒に歩けば、ぼくらは仲間だ～

「ドラゴンクエスト序曲」に合わせて、12班に分かれた子どもたちが、近隣の公園に向けて出発しました。11月19日、気持ちいい秋空の下、「おちろくクエストウォーク」の始まりです。

「おちろくクエストウォーク」は、本校の特色の一つである縦割り班遠足の代替行事です。縦割り班ごとに、近隣の八つの公園を異なる組み合わせで四つまわります。公園では、六年生が考えた遊びを行います。それぞれの遊びにはポイントがあり、帰校後にはそのポイントの合計で順位を競います。PTAの方が作ってくださった参加賞と、上位の班には景品があります。

公園で行う遊びは、事前に「おちろくクエストウォーク総選挙」で決定しました。総選挙では、六年生が、近隣の公園でできそうな遊びをプレゼンします。今回は、「かくれんぼ」「ひととじ」「いろね」「風景さがしゲーム」「特技のかべ」「紙飛行機大会」の六つをプレゼンしました。そのプレゼンを聞いて、全校児童が、やってみたい遊びに投票します。投票の結果、「かくれんぼ」「いろね」「特技のかべ」「紙飛行機大会」の四つが選ばされました。

「おちろくクエストウォーク」の本番当日、各公園で、六年生が遊びのルールを説明し、遊びが進行していきます。たくさんボイントを獲得するためには、班のみんなでの協力が肝要です。遊びをしている友達を応援したり、うまくいったときは拍手をして雰囲気を盛り上げたり、自信がなさそうな子には励ましたりしていました。日頃から行き慣れている、近隣の公園であっても、縦割り班のメンバーで遊ぶことで、いつもとは一味違う楽しさがあったようです。

半日程度の短い活動の中でも、お互いを認め合い、絆が生まれたことは、出発時と帰校時の子どもたちの様子から明らかでした。笑顔で六年生の膝の上に座っている子、うれしそうにおんぶをしてもらっている子。ちょっとよそよそしかった出発時の違いを感じました。

コロナ禍において、従来通りの縦割り活動が難しい面も多く、人間関係が希薄になりますがちな昨今です。しかし、年上の子に憧れの気持ちをもったり、年下の子に優しくしたりするなどの体験は、社会に出ていくうえでも大切なことではないでしょうか。改めて、縦割り活動の大切さについて感じることができた行事となりました。

六年担任 善我 明香



落合第五小

義足体験授業

2022年1月25日（火）、PTA主催でパラ陸上の支援をしてくれた株式会社Xiborg（サイボーグ）にご協力いただき、義足体験授業を体育館で行いました。

今年度も落五まつりなどのイベントが開催出来ない中、子どもたちに何か思い出に残る経験が提供できないか、と検討し義足体験授業を行うことにしました。子どもたちが観戦したパラリンピックの経験をさらに豊かなものにするため、パラ陸上の理解を深める授業をPTAで企画、運営することにしました。コロナ禍で分散登校が施されている中、少数の講師が学校に入る『出前講座』という形での開催となりました。

パラリンピック観戦によって実際に義足の活躍をみた4～6年生を対象に、装具や障害についての講義と義足体験が行われました。義足など装具の必要性、日本には障害を持っている人の割合が少なく、障害が身近ではない人が多い、といった話がありました。また、「義足は日常生活用とスポーツ義足がある」「義足の値段」「高額なスポーツ義足を誰もが手に入れるためには」などをパラ競技者の方から直接講義を受けて学びました。難しい内容でしたが、講義中の子どもたちは、考え深い表情や、興味を持った表情で聴き入っていました。

2講義目は参加した子どもたち全員が体験用義足をつけ、腿（おき）上げを始めとした走る動作を体験しました。未来を担う子どもたちが義足を作る仕事や医療、交通事業の必要性を考え、日本だけではなく海外での活躍を視野に入れた勉強を励む良い機会になったようでした。休憩時間中も積極的に講師の方々に学びに行く姿が大変印象的でした。

初めての義足体験と、観戦したパラリンピックの記憶が繋がり、いつもと違う感覚が味わえたと話してくれた子どもたちの生き生きとした活気の溢れた表情に、広がりある未来に微かな自信を見ることが出来たプログラムとなりました。

落五小PTA広報委員会



やっちゃん OCHISAN

子どもたちの思いや願いを生かし、豊かな生活や社会を築いていく

今年の6年生の総合的な学習の時間のテーマは、「落三SDGs～みんなが幸せな町や学校をつくろう！～」です。

自分たちが通う学校の児童や、落合に居住する地域の方々に元気になってもらおうことを目的とした活動です。町会や育成会の方から、地域のためにどのような思いで活動をしているかを聞いたり、学校の児童や教員、保護者などにアンケートを取りして、みんなの思いや願いを分析した結果から課題設定をし、様々な活動グループができました。

「コロナ禍で学年同士のつながりが薄れないから、絆を深める企画を考えよう。」「落合の歴史を調べてみんなに発信し、もっと落合のまちを好きになってもらいたい。」「学校をきれいにしたり、映えスポットを作ったりして学校のみんなに笑顔を届けたい。」「落合のまちのごみを減らそう。」「体育学習発表会を盛り上げるために、各学年のPR動画を作ったり掲示物を貼ったりしよう。」など、様々な活動を各グループが行いました。

みんなが幸せな気持ちになるための活動ですが、その過程は簡単なものではありません。せっかく計画を考えて実行することが難しく、断念することもあります。また、他者の視点をもたず自分たちのやりたいようにやるだけでは、相手にとつて幸せな活動にはならず、上手くいきません。さらに、取り組んでいく中でグループの友達と意見が合わず衝突することもあります。

そんな子どもたちの様子をたくさん見てきました。しかし、その中には大切な学びがありました。「失敗から自分自身や他者のことを知り、学ぶ。」「教科書やインターネットには答えがないことを自分たちの頭で考える。」「自分たちの思いや願いを自分たちの手で形にしていく。」どれも難しいことばかりです。難しいけれど挑戦してみる。そして当たり前の日常を支えている人たちの存在と努力に気付く。その中にこそ成長と自立の一歩があります。

落合第三小学校のテーマは「児童運動で共生社会を目指す」です。自分たちでやってみる。失敗したら自分たちで修正し、成功する道を模索する。そんな子どもたちが落三小の誇りです。

6年担任 東 良枝

